

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性に寄り添った支援の提供を行っています。	スモールステップの目標設定を行い、子どもが「できた!」と達成感を得られる成功体験を積み重ねています。 視覚支援(スケジュール表や写真カード)を活用し、子どもが見通しを持って自発的に動ける環境を整えています。	アセスメントの視点を大切に、根拠に基づいた個別支援計画へのアップデートを図ります。 職員間のケース会議を定例化し、支援方針のばらつきをなくし、チーム全体で統一した関わりを強化します。
2	家庭・学校・地域との緊密な連携体制をできるだけとれるようにしています。	送迎時の対面報告だけでなく、電話や面談を通じて保護者の悩みやニーズに迅速に応える体制を心がけています。	面談や、普段の立ち話等でも、家庭でのケアのヒントとなる情報提供の場を増やします。 地域のボランティアや他施設との交流を企画し、子どもたちが社会の一員として活動できる機会を拡充します。
3	安心・安全な居場所づくりとリスク管理を徹底しています。	ヒヤリハット事例を即時に全スタッフで共有し、再発防止策を当日のうちに検討・実施するスピード感を大切にしています。 子どもがリラックスして過ごせたり、感覚過敏等に配慮した環境づくりに努めています。	災害時を想定した避難訓練のバリエーション(地震・火災・不審者・水害など)を実施したり、合同訓練等も計画していきます。 スタッフの専門性向上のため、強度行動障害や医療的ケアに関する外部研修受講をさらに促進し、対応力を高めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の専門性向上と全職員への平準化が課題です。	子どもたち一人ひとりの特性は多岐にわたるため、どの職員が対応しても常に一貫した支援を提供できるよう、さらなる専門知識の共有が必要です。	事業所内でのケース検討会を充実させ、子どもへの関わり方の成功事例をチーム全体で共通認識として持ちます。 発達支援に関する最新の知見を学ぶ研修時間を確保し、個別の特性に応じた柔軟な対応力を組織全体で高めてまいります。
2	提供プログラムのさらなる多様化と質の向上です。	日々の活動が安定している一方で、子どもたちの新しい興味を引き出し、豊かな経験を積むためのプログラムのバリエーションをさらに広げていく余地があると考えています。	季節行事や、感性を育む創作活動、社会性を養う外出支援など、子どもたちが「ワクワク」できたり「主体的にできる」よう計画していきます。
3	活動の可視化と共有の充実を図ります。	事業所内での子どもたちの生き生きとした表情や、小さな成長の瞬間を、より分かりやすく、具体的に保護者の皆様へお伝えしていく工夫が必要です。	日々の活動報告の仕組みを検討し、子どもたちの様子を視覚的に共有できる環境を検討します。 定期的な面談や意見交換の場を大切にし、ご本人の思いやご家族の思いを大切にまいります。